

項目	取組状況
教育	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 平成 30 年度担当科目 <ul style="list-style-type: none"> ・日本史、現代社会、特別研究（後期） ◆ 担当科目の取組状況（工夫・改善した点） <ul style="list-style-type: none"> ・日本史では、学生にとって身近な事物を、時代や社会との関わりのなかで捉えられるようにするため、政治史だけでなく地域史・社会的な視点でのアクティブラーニングを随時取り入れた。 ・現代社会では、多様な考え方、生き方、および社会のあり方や仕組みを知ることにより、現代社会の諸問題を複数の視点から検討し、自らの考えをまとめられるようになることを目的として、ワークシートの活用やグループワークおよび個人発表等の実施に努めた。 ・特別研究は、「生命・家族のこれまでとこれから」というテーマで、ゼミ形式の授業を行った。生命および家族に関わるトピックを幅広く扱い、国内外の歴史や文化および現代社会の諸問題と関連づけながら、一人ひとりの関心に沿って自由にテーマを設定し、調査や議論等を通じて考えを深められるようにサポートした。 ◆ 特記すべき教育方法の実践例 <ul style="list-style-type: none"> ・日本史では、教科書の内容にとどまらず、学生自身にとって身近な地域やテーマについて掘り下げられるよう、一人ひとりが自ら問いを立てて調査し、結論を導き出す過程を重視した。前期はまず学生がレポートを製作し、一人ひとりのレポートについて教員がコメントを返した。夏休みにはそのコメントを参考に学生がレポートを改良し、後期の授業で一人ずつ発表するという実践を行った。 ・日本史の授業において、グループワークを実施した。一つの出来事についてグループごとに異なる立場（視点）から考察・発表し、立場によってその出来事の持つ意味が大きく異なることを体験的に学べるようにした。 ・現代社会の授業では、貿易ゲームや模擬投票などを取り入れ、国際関係や政治等について身近に感じられるようにした ・現代社会では、高専でなかなか学ぶ機会のないジェンダー論およびセクシュアリティ論の基礎的な内容についても取り扱った。 ・特別研究では、導入として共著書『テーマでひらく学びの扉 少子化社会と妊娠・出産・子育て』を活用した。
研究	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 平成 28～30 年度における研究業績 <ul style="list-style-type: none"> ■ 学術論文執筆 <ul style="list-style-type: none"> ・西岡正子編著『未来をひらく男女共同参画—ジェンダーの視点から—』ミネルヴァ書房、2016 年 4 月（担当範囲：第 2 章「ジェンダーと歴史」、コラム 12「子どもをもつ女性と職業」） ・由井秀樹編著『テーマでひらく学びの扉 少子化社会と妊娠・出産・子育て』北樹出版、2017 年 4 月（担当範囲：第 3 章「出産—新しい生命を迎えるということ」、第 4 章「母子保健—母と子の「健やかさ」を考える」（共筆）、コラム 10 「児童虐待 喫緊の

	<p>課題 社会が育児を担うしくみ」(共筆))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「奇形児」の出生をめぐる対応 ――1920年代後半から1960年代の助産婦・産科医の立場に注目して――」『大阪府立大学高専研究紀要』第52号、1-8頁、2018年12月 <p style="text-align: right;">他2件</p> <p>■ 学術講演会での発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「近代日本における産屋の変容」第29回長崎県母性衛生学会学術集会、特別講演、2016年6月 ・「出産・母子保健と「家族」」シンポジウム「妊娠・出産・子育ての現在・過去・未来」(主催：立命館大学人間科学研究所インクルーシブ社会・医療サービスプロジェクト)、2017年10月 ・「近代日本における出産と産屋」神崎郡歴史民俗資料館連続講座、2018年9月 <p style="text-align: right;">他10件</p> <p>◆ 平成28～30年度における外部資金獲得状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公益財団法人トヨタ財団: 2016年度研究助成プログラム「母子保健における「標準化像」の形成過程に関する歴史的研究」(研究期間: 2017年4月～2019年3月、代表者: 由井秀樹) ・日本学術振興会: 科学研究費助成事業(基盤研究(C))「女性差別撤廃条約総括所見をめぐる総合的研究: 日本の国内実施体制と阻害要因を中心に」(研究期間: 2017年4月～2020年3月、代表者: 吉田容子) <p>◆ 学会などでの受賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スミセイ女性研究者奨励賞「発達障害の早期発見をめぐる歴史と意味―母子保健との関連を中心に―」住友生命保険相互会社、2017年3月 ・日本民俗学会研究奨励賞、2017年10月 ・校長顕彰(第2条のうち(1)の研究関連)2017年10月
社会貢献	<p>◆ 平成28～30年度における公開講座・出前授業の取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ジェンダーの視点で社会をみると…?」はりま産学交流会創造例会、2017年10月 ・「日本における女性観と女性差別: 女性のケガレから考える」人権教育啓発リーダー養成講座、2018年9月 ・「何気ない言動がなぜセクハラに?～ジェンダー論の基礎の基礎～」ものづくり中小企業の人材確保・活性化に必要な働き方改革とダイバーシティ・ジェンダーの理解(大阪府立大学主催)、2018年11月 <p>◆ 平成28～30年度における学協会等の委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本女性学研究会『女性学年報』編集委員(2010～2017年度) ・日本保健医療社会学会機関誌編集委員会査読委員(2017年度) <p>◆ 特記すべき社会貢献の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人友遊福社会 評議員